

第5回審議会の議論の中で出た意見の整理

(将来の自立をめざして)自分の生き方を見つける教育

人とのつながりの中で
学び・育つ学校づくり

縦のつながりを創る学校づくり

義務教育学校も含めた小中一貫校の視点を積極的に取り入れ、
異年齢の関係の中で子どもが育っていく学校

横のつながりを創る学校づくり

同級生の多様な仲間とともに、
人とつながる力を身に付けることができる学校
保護者や地域の人、地域と学校がつながり、
地域と共に子どもの学びや成長を見守る学校

将来の自分とのつながりを創る学校づくり

自分の将来の姿をイメージしながら学びをつなげ、
自立に向けて育っていくことができる学校

新たな時代に
対応した学校づくり

めざす教育の軸を踏まえた学校づくり

めざす子ども像を共有し、
門真の子どもたち全体の底上げにつなげる学校

新しい教育内容に対応した学校づくり

主体的で対話的な学びといった新しい学習形態に適応した、
学ぶ意欲を高める様々な空間や機能のある学校

地域に関われた学校づくり

地域資源の活用や、学校を拠点とした地域活動など、
地域の人が行きかう、地域と共にある学校

人がつながり、みんなが楽しく過ごせる学校づくり

子どもたち、地域の人、みんなが安心して多様な活動ができる
快適でワクワクする学校

安全・安心

審議会意見

安全・安心はニュアンスが違うのでは。
楽しい生活の場としての言葉に置き換えたほうが良い。

これからの新しい学校づくりの方向性

(将来の自立をめざして)自分の生き方を見つける教育

人とのつながりの中で 学び・育つ学校づくり

縦のつながりを創る学校づくり

義務教育学校も含めた小中一貫校の視点を積極的に取り入れ、
異年齢の関係の中で子どもが育っていく学校

横のつながりを創る学校づくり

同級生の多様な仲間とともに、
人とつながる力を身に付けることができる学校
保護者や地域の人、地域と学校がつながり、
地域と共に子どもの学びや成長を見守る学校

将来の自分とのつながりを創る学校づくり

自分の将来の姿をイメージしながら学びをつなげ、
自立に向けて育っていくことができる学校

新たな時代に 対応した学校づくり

めざす教育の軸を踏まえた学校づくり

めざす子ども像を共有し、
門真の子どもたち全体の底上げにつなげる学校

新しい教育内容に対応した学校づくり

主体的で対話的な学びといった新しい学習形態に適応した、
学ぶ意欲を高める様々な空間や機能のある学校

地域に開かれた学校づくり

地域資源の活用や、学校を拠点とした地域活動など、
地域の人が行きかう、地域と共にある学校



修正案
快適で楽しく
過ごせる場所づくり

人がつながり、みんなが楽しく過ごせる学校づくり

子どもたち、地域の人、みんなが安心して多様な活動ができる
快適でワクワクする学校

第5回適正配置審議会の主な意見

○基本的な考え方について

- 前半の学校づくりの方向性を、未来志向で、どう具体的に実現するか。新しく校舎を創ることも含めて考えたい。
- 学校目線ではなく、子どもたち目線でどうするのが良いか考えるのが大事。
- 子どもの数での単純な統合ということではなく、新しい学校を創るという考え方で捉えていきたい。
- 地域コミュニティづくりも合わせて考える必要がある。

○学校の統合について

- 子どもが少ないところは優先的に考えてほしい。
- 子ども数が少なくなっている中で、子どもたちの成長を考えると、多数の人の中で学び合うのが良いと思うので、統合も含めて進めていくのが良いのではないかな。
- 子どもの横のつながりを考えた時に、あまり少ないと子どもの成長に影響が出るんじゃないかな。また、これから大事になる対話的な学びや、多様な交流の中での学びが難しくなる。統合も含めて、横のつながりを広げられる学校の環境を創るのが大事。前向きに進めていくのが良いのではないかな。
- 数が少なすぎるのはどうかと思うが、地域では反対という人もいる。地域ともそういう話をしていくことが大事。反対はあって良い。それだけ学校に愛着があるということ。学校を見るのか、子どもを見るのかの視点が大事。門真の子どもたちにとってどうか、子どもや孫に何を残したいかを一緒に考えてもらうことが大切ではないかな。
- 跡地の一部は地域活動のために残すなど、跡地の在り方も合わせて考えていく必要があるのではないかな。

○全体を踏まえた優先順位の必要性

- 子どもの数の推移、地域や校区の広さ、施設の老朽度、立地条件・学校分離の経緯などを考えながら、優先順位をつけていくことが重要である。
- 門真市の財政や学校の状況を踏まえると、優先順位をつけながら、学校数も減らしつつ、新しい学校づくりの予算を確保するやり方が好ましいのではないか。
- 全部という夢のような話ではなく、ひとつひとつ着実に創っていくことがベターである。一度にはできないが、将来のことも見通して考えておかないといけないのではないか。
- 将来に期待する姿を示したうえで、この審議会では、ある程度の期間を決めて、その間に何を優先するかということを議論し、提言するやり方はどうか。
- 100人台になっている学校は優先度が高いのではないか。
- 9年間を見通した門真の教育について、リーディング校として物理的な条件が揃うところを、チャンスと捉えて創っていくのが良いのではないか。

これらを踏まえて、具体的な議論がなされた

砂子小・脇田小・東小学校・四中のエリアについて

問題提起となる意見

校区面積

- 砂子小学校校区は、地域のリソースを考えると狭いのではないかと。

児童数の推計

- 砂子小はR7年で51人と推計されている。複式学級になってしまう人数。早急に手を打たないといけないのではないかと。
- 砂子小は子どもが少なくなりすぎているのではないかと。

立地条件

- 脇田小と四中は隣にあって広い校地が確保できそうである。

東小校区(江端地区)に対する意見

- 東小の少数の子どもたちだけが、四中に通うことになる。
 - ・なかなか、なじめないケースもある。
 - ・嫌だなど感じている子どももいる。
 - ・四中として東小と連携しにくい現状がある。
- 四中校区に新しい小中一貫校ができる場合に、この地区の子どもが7年生から途中で編入することになるのはかわいそうだと思う。1年生から入れるようにするか、その他の子と同じように五中に進むかどちらかにしてあげるほうが良いのではないかと。
- 四中校区と一緒に考えるという案は考えられる。五中に行くパターンもあるが、すぐそばに新しい学校があるのに、わざわざ遠くの学校行くのもどうか。⇒江端町地区は、新しい学校のエリアに含める形で進めるのが良いのではないかと。

方向性

- 校区の面積、築年数、児童数の問題をトータルで考えると、砂子小を含む四中校区はすぐに手を打っていく必要があると考える。
- 立地条件も含め、小中一貫校のモデルエリアとして捉え、砂子小、脇田小、東小の一部(江端地区)、四中で新しい小中一貫校を考えるのが適当ではないかと。

四宮小・北巢本小・五中のエリアについて

第3次答申の経緯

問題提起となる意見

- 第3次答申の対象であったが、いったん白紙撤回になって、次の審議会に委ねられているところである。
- 第3次答申では、北巢本小敷地にということであったが、学校の分離の歴史から見ると親は四宮小で、ここから北巢本小へ分離した経緯になっている。

施設の老朽化

- 施設の老朽化が進んでいる。四宮小は築53年、北巢本は築44年で大規模改修も行われていない。老朽化が進んでいる四宮小を何とかしたい。

児童数の推計

校区面積

- 北巢本小は、全学年単学級になっている。
- 北巢本小校区は、地域のリソースを考えると狭いのではないかと。

四宮小・北巢本小の統合に対する意見

- 客観的な情報からは、校区の広さ、児童数、今後の推移、学校の築年数など、砂子小・脇田小と同様に考えなければならないのではないかと。過去に一度うまくいかなかったかもしれないが、現状を踏まえると、子どもたちにとって、喫緊に迫っている問題と言えるのではないかと。
- 北巢本小は、既に単学級になっていて、今後も少なくなっていく見込み。五中も含め、小中一貫校の可能性は考えられないかと。五中は大規模改造をやったばかりである。
- 場所については、学校の歴史、地理、築年数等も含め、四宮小に新しく創ることが考えられるのではないかと。将来的な展望で言うと、五中と四宮小の距離は近く、東小も含めた分離型での小中一貫校の可能性、また、五・四制なども可能性もあるのではないかと。

方向性

- 四中校区の小中一貫校エリアと同様に、優先順位が高いエリアではないかと。
- 五中は大規模改造を実施したところであり、現時点で五中を含めた施設一体型の学校づくりは考えにくい状況であるが、北巢本、四宮小について、新しい学校づくりを考えるのが適当ではないかと。

その他のエリアについて

- その他のエリアについても、いくつか言及があった。

大和田小・上野口小・古川橋小のエリアについて

- 中学校区を外して考えると、地理的に言えば、大和田小、上野口小、古川橋小は、それぞれの校区面積が狭く、エリアのまとまりとして見れるのではないか。
- どこも子どもも少なくなっていることから見ても、中学校区の再編という可能性もあるのではないか。

五月田小・七中のエリアについて

- 五月田小、七中も隣り合っているが、五月田小を大規模改修をやっているので、今すぐここを一緒にというのはできない現状もあるかなと思う。
- すぐにすべての学校を施設一体型というのは難しいが、施設一体型も創りながら、それ以外の学校でも、小・中の連携を深めていくことが大事かと思う。

引き続き、子どもの数の推移、地域や校区の広さ、施設の老朽度、立地条件・学校分離の経緯、小中一貫教育など、前回の議論を踏まえつつ、市全体の方向性と優先順位を議論していくこととしたい。